

イヌの流涙症に対する改良型内眼角形成術の応用

斎藤 陽彦¹, 竹花 一成², 石田 こずえ³, 小谷 忠生³

¹ トライアングル動物病院, ² 酪農学園大学獣医解剖学教室, ³ 同獣医外科学教室

□目的

涙点や涙小管に異常のないイヌの流涙症において、その原因は鼻側下眼瞼内反、内側眼瞼靱帯の緊張、および内眼角部の睫毛や被毛の異常などと考えられている。演者らはこれらの要因を改善する手法として、内側眼瞼靱帯に切開を加える改良型内眼角形成術(modified medical canthoplasty: MMC)を考案した。その術式と流涙症に対する臨床成績を報告する。

□材料と方法

2001年4月から2002年3月までに流涙の改善を目的としてMMCを実施した7症例を対象とした。内訳はシーザー4頭、マルチーズ、トイプードル、ミニチュアダックスフントが各1頭であった。術式は以下のとおりとした。1) 内眼角皮膚の小切開を頬骨骨膜方向に進め内側眼瞼靱帯に切開を加える。2) 必要に応じ上下の眼瞼縁を切除する(シーザー4例では上下眼瞼を2mm程度切除したが、他の3例では眼瞼切除は行わなかった)。3) 涙丘および周辺部結膜の被毛を

切除する。4) 結膜面と眼瞼皮膚を縫合する。術後の評価は、眼脂と流涙について改善の有無、眼瞼裂の長さについては短縮の有無とした。

□結果

眼脂・流涙ともに全例で改善がみられた。また眼瞼裂の長さは、シーザー4例では短縮したが、他の3例では変化なかった。

□考察

手術後には内側眼瞼靱帯の緊張が解除され、鼻側下眼瞼内反が矯正された。その結果、涙点が開放し涙液の排泄障害が改善されたものと考察された。また、内眼角部の睫毛や被毛の異常が改善されたため、流涙と眼脂が減少したものと考察された。さらに、MMCは眼瞼裂の短縮も可能であるため、流涙のみならず眼瞼裂拡大(Euryblepharon)を伴う短頭種の眼表面障害に応用される術式と期待される。